

自分の意思を再確認させてくれた 100人力イギ



松村光章

(まつむら みつあき)

- ・2003年3月 名古屋大学医学部保健学科放射線技術学を卒業
 - ・2003年4月 神戸赤十字病院/兵庫県災害医療センター入職
 - ・2013年10月 循環器領域の血管内イメージングフェローとしてニューヨークのコロンビア大学とCardiovascular Research Foundationに留学
 - ・2014年10月～現在 Cardiovascular Research Foundationでスタッフとして勤務
- 主にIVUS/OCT/Physiology/CT/MRIの解析や研究に従事している。筆頭論文は、「Intravascular ultrasound and near-infrared spectroscopic features of coronary lesions with intraplaque haemorrhage. Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2017;18:1222-1228」、「Accuracy of Fractional Flow Reserve Measurements in Clinical Practice – Observations from a Core Laboratory Analysis. JACC Cardiovasc Interv. 2017; 10: 1392-1401.」などがある。

100人力イギでの登壇内容の要約

現在は、ニューヨークで血管内イメージングを用いた冠動脈プラークの研究に従事しています。100人力イギでは、現在に至るまでの過程で、なぜ自分自身の思考が日本ではなく海外へ向けられたのか、また日本の仕事を辞めてまで海外で挑戦しようと思ったのか、といった自身の思いや考えの変化にフォーカスを当てた内容がありました。「自分自身のやりたいことをやり抜きたい」という思いが、自身を突き動かした原動力であったと感じています。

100人力イギのオファーを受けた理由

放射線技師という資格のもと、日本国内の病院や企業のみで働くことだけがゴールではなく、日本での臨床経験を活かし、世界で挑戦できること、また生き方は多様であることを広く知ってほしいと考えたからです。

100人力イギに登壇or参加した感想、 そしてそれがきっかけで変わった事

参加者としては、放射線技師という大きな括りで見るのではなく、各登壇者の思いや考え、また葛藤や決断を知ることができ、各々の生き方の多様性を改めて認識することができた。

登壇者としては、自分の過去を冷静に見つめ直すことができ、当時の思いや自身が行うべき次への取り組みを再確認することができた。自身の物事に対する考え方の基準軸が、「できるかどうか」ではなく、「やりたいかどうか」といった自分の意思の部分にフォーカスするようになっていくと感じています。

100人力イギでまだ伝え足りなかつた と思う事・今また更に伝えたい事

自分自身が現在に至るまでに出会った大勢の方々からアドバイスをいただけたことは、非常に感謝していますし、「出会い」は大切であると感じています。一方で最終的には、自分自身が新たな一步を踏み出さない限り、何も状況や物事は変わらないということも知っておく必要があると感じています。自分自身が信じたものをブレずに、責任をもって最後までやり遂げることこそが重要ではないかと感じています。

100人力イギの活動テーマは 「新たな一步」ですが、 松村さんの新たな挑戦と今の思いは

日本で働いて10年、アメリカで働いてちょうど10年目を迎えています。ありがたいことに、世界中に議論できる仲間ができ、たくさんの英語論文にも関わらせてもらっています。この経験をどのように活かしていくか、また世界に伝えていける